

## 【17】学校運営連絡協議会報告（令和3年度）

### 1 組織

- (1) 協議会名称  
令和3年度 東京都立墨田工業高等学校定時制課程学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成  
事務局長（教務主任）、他1名 計2名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導部主任、進路指導部主任 計6名
- (4) 協議委員の構成  
近隣中学校校長、地元消防関係者、地元警察関係者、近隣町会代表、  
PTA役員、同窓会会長等 計7名

### 2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（1～3回）の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回	内容	令和3年7月	第1回	学校運営連絡協議会書類送付
			①	書面開催の連絡
			②	委嘱状交付
			③	委員名簿
			④	学校運営連絡協議会設置要項
			⑤	令和元年度学校経営報告
			⑥	令和元年度学校運営連絡協議会 実施報告書
			⑦	学校経営計画
			⑧	各分掌資料
			⑨	年間行事予定
第2回	内容	令和3年12月	第2回	学校運営連絡協議会書類送付
			①	書面開催の連絡
			②	学校評価アンケートについて
			③	各分掌からの報告
第3回	内容	令和4年3月	第3回	学校運営連絡協議会書類送付
			①	書面開催の連絡
			②	学校評価アンケート集計結果（グラフ）
			③	学校評価アンケートグラフの傾向
			④	各分掌からの報告
			⑤	学校運営連絡協議会アンケート

- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

評価委員会の構成	委員長—近隣中学校長、委員—協議委員2名 委員—内部委員2名
第1回	内容 令和3年12月
	①書面開催の連絡
	②第1回学校運営連絡協議会評価委員会書類送付
	③学校評価アンケートの実施内容の確認
第2回	内容 文書開催（結果報告）

### 3 学校運営連絡協議会の成果と課題

- (1) 今年度の課題

#### ・情報発信力の低下

コロナ禍で学校行事が実施できない。そのため、ホームページに掲載する話題が無い。コロナのため外部の人（近隣や保護者）が来校できない。つまり、情報発信ができない悪循環になってしまった。学校の情報発信が無いと、本校に対する関心が減少し、アンケートの回収に大きく影響したと考える。

今までのホームページでは、ニュースの見出しが小さく内容が伝わりにくく、全体的に

暗い印象のホームページであった。4月にホームページのリニューアルを実施し、中学生や保護者が見たくなるように改善に取り組む。

(2) 学校運営連絡協議会からあげられた課題

・情報発信の方法

学校がよくなったという質問に対し、「どちらともいえない」「わからない」が57%と過半数を超えた。この原因は、コロナ禍による書面開催のため、学校の状況が伝わっていないため、本校の実情がほとんど分からないことが考えられる。

学校には、生徒だけではなく、保護者や地域の方々が多く集うことで、学校を知って頂き、改善の意見等を聞くことができることが改めて認識した。

#### 4 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営全般

新型コロナウイルス感染症対策のため、ホームページや学校だより、メール配信サービスを活用して、学校からの情報発信の充実を図ったが、情報発信力の低下は否めず、コロナ禍における、保護者・地域との連携の方法を模索する必要がある。

(2) 学習活動

今年度より、新学習指導要領が始まる。1年生は、「観点別評価」になる。また、一人一台端末（TOKYOスマート・スクール・プロジェクト）が導入される。評価方法及び新しい指導方法の確立が急務である。

(3) 特別活動

生徒会活動や部活動の活性化を図り、各種行事等を自主的・自立的に運営できる人材の育成を目指す。

(4) 生活指導

グループ・エンカウンターやカウンセリング等の充実を図り、生徒理解を進めると共に、基本的な生活習慣の確立、人権尊重の意識、自らの健康の保持増進に努め充実した学校生活を送れるよう指導する。

(5) 進路指導

3年生全員によるインターンシップを継続し、系統的なキャリア教育の充実を図り、資格取得等を活用し目的意識と基礎学力の定着を進め、希望進路の実現を目指す。

#### 5 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人（回答者数7）

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	そう思わない	わからない
3	0	2	0	0	2

#### 6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 なし

## 【18】学校評価アンケートの集計結果（令和3年度）

### 1 学校運営連絡協議会による学校評価

#### (1) 学校評価の主な観点と内容

本校の教育活動が、生徒・保護者・地域等にどのように理解・認識されているかを知り、積極的な学校教育の改革改善に資する。

#### (2) 評価の実施時期と対象及び方法

- ・ 1月 全校生徒 39名（アンケート用紙または電子回答）
- ・ 1月 保護者全員 39名（アンケート用紙または電子回答）
- ・ 2月 教職員 17名（アンケート用紙）
- ・ 1月 地域 14名（アンケート用紙）

#### (3) 主な評価項目

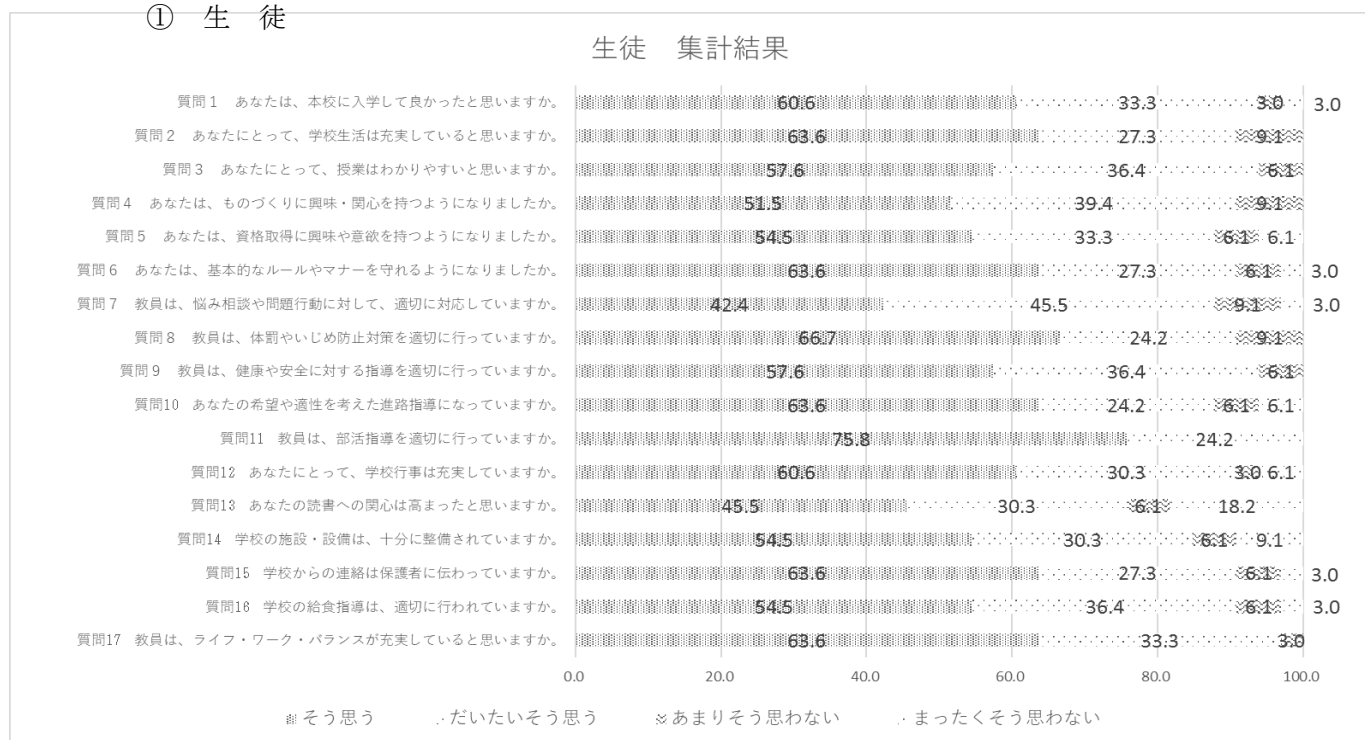
学校全体に関すること、授業に関すること、生活指導に関すること、進路指導に関すること、学校行事等特別活動に関すること、ライフ・ワーク・バランスについてなど。

### 2 アンケート集計結果について

#### (1) 評価結果の概要

回収率	生徒	84.6%
	保護者	5.1%
	教職員	76.5%
	地域	35.7%

#### ① 生徒



「A：そう思う」、「B：だいたいそう思う」という肯定的な回答が8割から9割程度であった項目が、昨年と同様に17項目中16項目となった。また、8割を下回ったのは、これも昨年と同様の「13 読書への取組」であったが、肯定的な回答は、昨年に比べ75%と大きく増加した。コロナ禍だが、生徒は、「11 部活動」が90%、「12 学校行事」が84%と肯定的な回答が多かった。

#### ② 保護者

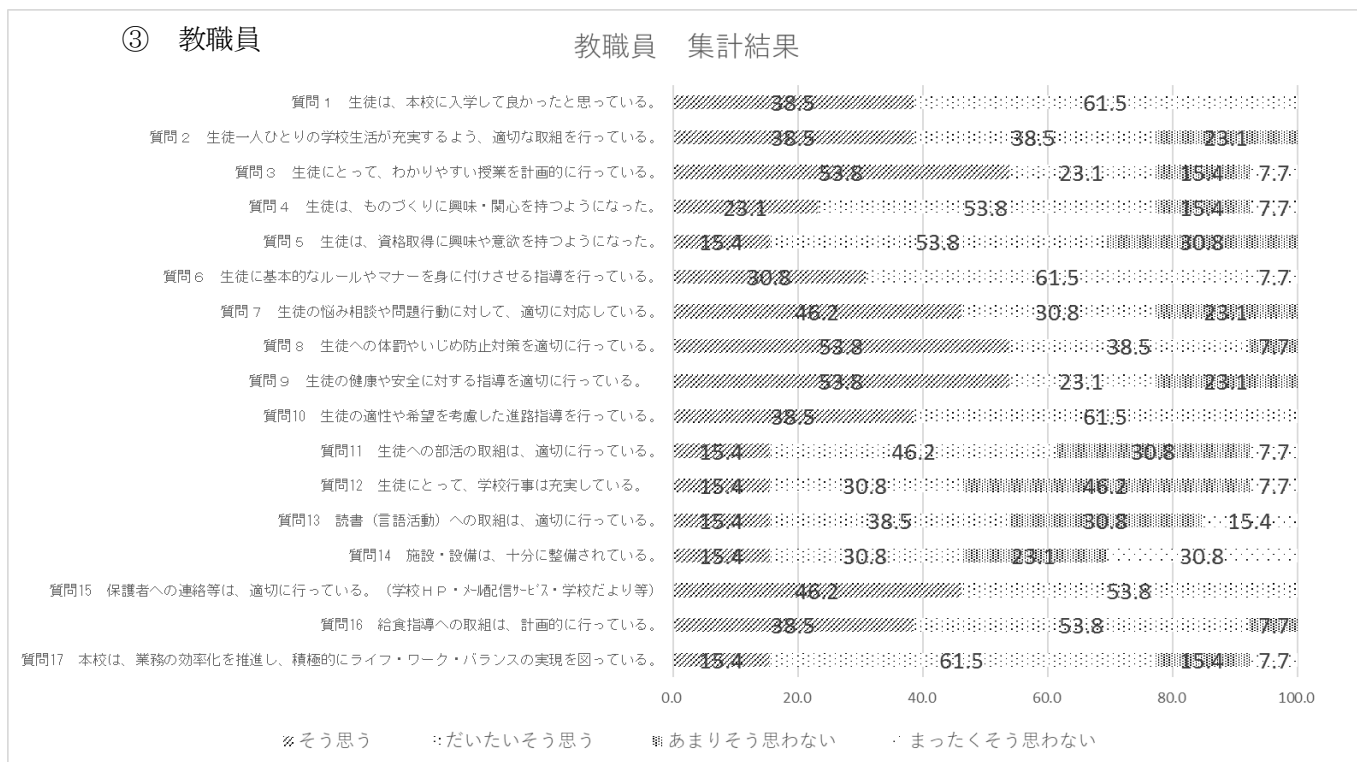
残念ながら、2通の回答のみであった。

コロナ禍のため、学校行事が実施できず、保護者が来校できない状況が、ほぼ2年間続いている。このような現状では、学校の評価は正しくできないと判断した保護者が多く、回答を遠慮したと考える。

頂いた回答は、全て肯定的な意見であり、生徒が元気で楽しく登校していることで、

良い評価になったことが推測される。

しかし、皮肉な結果だが、生徒の結果で「15 学校からの連絡」でそう思うと回答した生徒が 100%だったのに対して、保護者からの回答数がこの現状であった。学校の状況を周知する方法を更に考えなければならない。



肯定的な回答が 8 割から 9 割であった項目は 17 項目中 6 項目である。8 割を下回る項目は、11 項目で、特に 5 割を下回った項目が 2 つあった。

「12 生徒にとって、学校行事は充実している」及び「14 施設・設備は十分に整備されている」が共に否定的な回答が 53.8%と多かった。これもコロナ禍における生徒への安全を配慮した学校運営の難しさと施設・設備の老朽化に対する課題がはっきりと分かった。

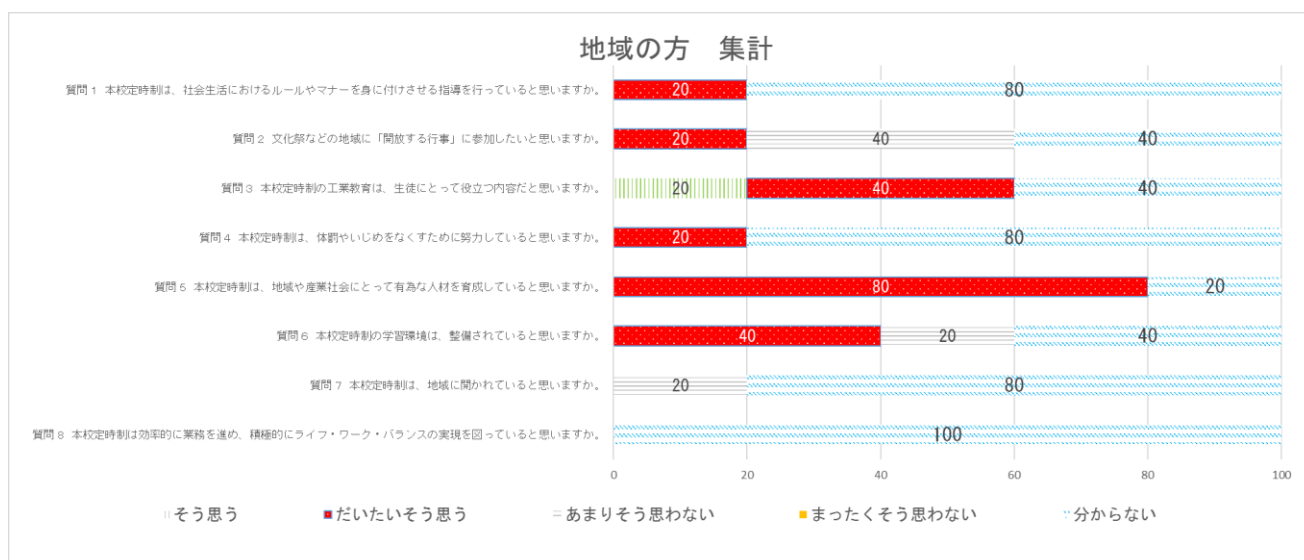
「13 読書（言語活動）への取組は、適切に行っている。」は、肯定的な回答が 53.8%と低い。生徒の回答より低く、言語活動の充実を図らなければならないと考えている教員が多いことが分かる。

#### ④ 地域

質問	質問内容	分からない
質問 1	本校定時制は、社会生活におけるルールやマナーを身に付けさせる指導を行っていると思いますか。	80 %
質問 2	文化祭などの地域に「開放する行事」に参加したいと思いますか。	40 %
質問 3	本校定時制の工業教育は、生徒にとって役立つ内容だと思いますか。	40 %
質問 4	本校定時制は、体罰やいじめをなくすために努力していると思いますか。	80 %
質問 5	本校定時制は、地域や産業社会にとって有為な人材を育成していると思いますか。	20 %
質問 6	本校定時制の学習環境は、整備されていると思いますか。	40 %
質問 7	本校定時制は、地域に開かれていると思いますか。	80 %
質問 8	本校定時制は効率的に業務を進め、積極的にライフ・ワーク・バランスの実現を図っていると思いますか。	100 %

上の表は、「わからない」の回答の割合を抜粋したものである。地域の方々と連携した、様々な教育活動を通して、生徒の成長と共に学校を知っていただくのだが、これも、コロナ禍により、ほとんど実現できなかった。ホームページで学校的话题を提供しているが、やはり、学校でイベントが無いとホームページ等を見る機会がほとんどないのが実情と考える。

そして、本校に寄せる期待は高く、「質問 5 本校定時制は、地域や産業社会にとって有為な人材を育成していると思いますか。」に 80%の方が「そう思う」と回答した。



### 3 アンケート集計結果の考察

学校の広報活動は新型コロナウイルスのため、制約が多く、従来の活動が出来ない。「新しい日常」の中で、学校を周知する取組を行ったが、本アンケートの結果の通り、多くの回答が集まらなかった。コロナ禍が去り、通常の学校行事が再開されれば、学校に保護者・地域の方が集うことができ、多くの方から、回答を得ることができ、学校をより良くする意見が多く聞くことができると考える。

生徒と教職員の肯定的回答の差が大きい質問について以下に考察する。

- ・質問 11 部活動の指導について…生徒 100%、教職 61.5%

生徒は、コロナ感染対策のために部活動の制限を行っていることを、自分たちのためと評価しているのか、部活動に興味がないのか、のどちらかだが、部活動に入部している生徒の割合が約6割を考慮すると、基本的に部活動に興味が無い生徒が多いことが想像できる。

しかし、教職員は、自由に部活動が出来ない現状を憂い、このような数値になったと考える。

- ・質問 12 学校行事の充実について…生徒 90.9%、教職員 46.2%

第1・2学年は、入学して、ほとんど学校行事を体験していない。(1年生では、中学校の学校行事も体験していない可能性がある。)つまり、校外学習や文化祭を知らないのである。このような生徒にとって、何をもって「学校行事の充実」と回答してよいのか分からない(分からないと回答した生徒は、6.1%であった)のが本心だと考える。

教職員は、生徒の様々な活躍の場である学校行事が無いことは、大変残念なことであり、生徒の思い出作りが出来ないことに心を痛めている。

- ・質問 13 読書(言語活動)への取組 生徒 75.8%、教職員 53.8%

生徒・教職員共に肯定的意見が少ない質問項目であった。ビブリオバトルへの参加や感想文コンクールへの出展など、読書活動の充実に向けて、さらなる取組が必要である。

- ・質問 14 施設・設備の充実…生徒 84.8%、教職員 46.2%

この質問項目では、肯定的意見が大きく乖離した。生徒は、現状の実習でほぼ満足しているが、教職員は、今の施設・設備では、先進の技術を教えることができないと不満がある表れである。

少しでも改善できるように修繕や更新を適切に管理し執行しなければならない。